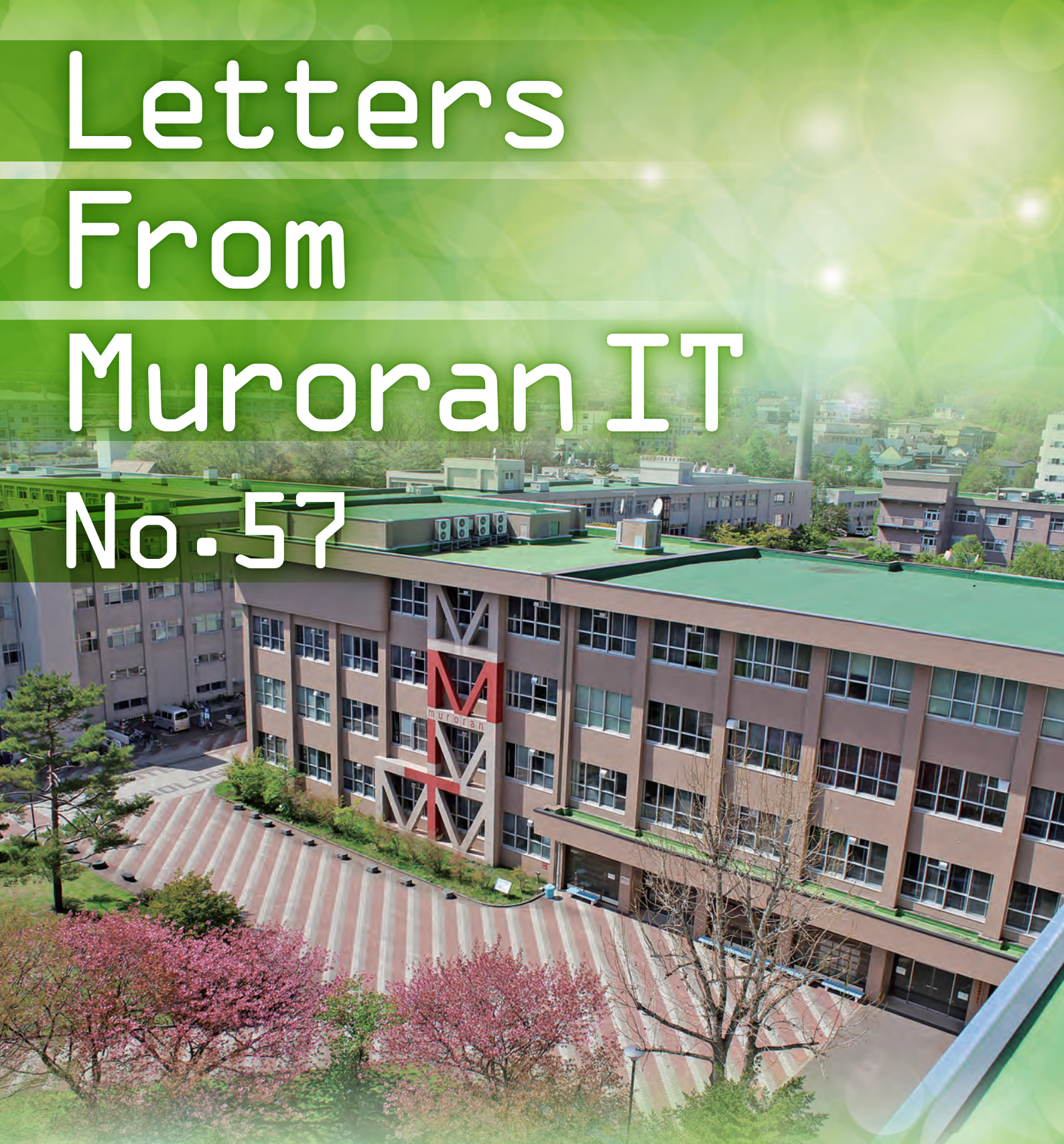


Letters From Muroran IT No.57

An aerial photograph of a large, multi-story university building with a green roof and a prominent red 'M' logo on its facade. The building is surrounded by a paved courtyard and several trees, including some in full pink cherry blossom. The background shows a residential area with smaller houses and a tall industrial chimney under a clear sky.

CONTENTS

- 01-02 学生の活動紹介
- 03 研究紹介
- 04 室蘭工大 OB・OG 訪問
- 05-06 TOPICS

大学と地域を結ぶ高砂5丁目公園

プレーパークプロジェクト2017



高砂5丁目公園プレーパークとは

「大学と地域を結ぶ高砂5丁目公園プレーパークプロジェクト」では、室蘭工業大学に隣接する高砂5丁目公園内の落ち葉や湧き水などの自然資源を活用し、季節に応じた遊びや、普段できないような木工教室・昔遊びの体験などができる「プレーパーク（子どものための自由な手作りの遊び場）イベント」を地域住民と一緒に企画・運営の活動をしています。本プロジェクトは今年で4年目になり、今年度は夏（6月）・秋（11月）・冬（1月）にイベントを開催しました。また、本プロジェクトは、「子どもの屋外・自然の中での遊び・学習体験の場づくり」、および「学生同士の交流を図るとともに、大学と地域住民の交流の促進による新たなコミュニティの形成」を目的として活動しています。

今年度の活動は

今年度のイベントのプログラムとしては、その季節でしか遊べない「落ち葉プール」や「雪遊び」、高砂5丁目公園の地形・湧き水空間を活かした「段ボールそり」や「稲植え」、また、室蘭工業高校の高校生や近隣に住んでいる住民と一緒に「フリスビーづくり」や「のこぎり体験」などを企画しました。

今年度、活動を通して印象に残ったことは、秋のイベントで過去最多の120人もの親子や近隣住民が遊びに来てくれたことです。以前から、新聞社に周知協力の依頼や、チラシを作成して近隣の幼稚園・小学校に配布などを行ってきましたが、今年度はその成果が現れたと感じました。また、参加者からも「前回も遊びに来たよ」、「子どもたちの遊ばせる場は（子育てにおいて）助かります」などの声も聞くことができ、本プロジェクトが地域に根付いてきたことを実感しました。また、今年度は例年の活動に加えて「地域の様々な人達とのつながり」を特に意識しました。結果としては、室工大の美術部と協力してお絵かきプログラムを企画したことや、近隣店舗の Pain de mic さんや丸田農園さんとの協賛が実現できたこと等、活動の幅を広げることができました。ご協力してくださった関係者様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

本プロジェクトは、来年度も継続して活動する予定で、子どもたちにもっと外で楽しんでもらえるようなプログラムや地域の様々な人を巻き込むようなイベントを企画していきたいと思っています。また、イベントを開催する際は大学の掲示板などにポスターを掲示しますので、当プロジェクトに興味がある方は気軽に参加してみてください！



夏のプレーパーク



秋のお祭り



冬のプレーパーク





室工大生
プレゼンツ

応援あさごはん



1月31日(水)～2月2日(金)の三日間、一日110食限定であさごはんを提供しました。目的は次の3つです。

- ①あさごはんをしっかり食べて、試験勉強や研究を頑張してほしい。
- ②あさごはんを食べるメリットを体感してもらい、食生活の改善に関心を持ってもらいたい。
- ③室蘭の商店に協力してもらい、大学と室蘭のまちとの結びつきを深めたい。

学生主体で行うのだから、学生としての気持ちを反映したいと考えていました。例えば、朝早く起きて朝食を食べて生活を改善してほしいというようなことを強く願ってはいませんでした。何故なら、朝早く起きることができないのは夜遅くまでアルバイトや勉強、レポート課題に勤しんでいるからだと考えているからです。自分たちのように、規則正しい生活をして栄養のある食事を摂りたいと願っていても、そのように生活できないというジレンマを抱えている学生は少なくはないのではないのでしょうか。実家から離れて暮らしている方なら、一度でも『誰かが作ってくれた温かいご飯が食べたい。』と思ったことがあるのではないのでしょうか。私たちはこのような願いに応えたいと考えて活動して参りました。

私たちの活動に対し、室蘭市にある居酒屋『仁や』のマスターが共感してくださり、全面的に協力してくださりました。イベント当日の朝 3 時から『MUG CAF JINYA』という仁やのマスターが持っているもう一店舗のお店で指導して頂き、調理させて頂きました。マスターの味付けはとても素晴らしく、指導も的確だったため、3日間とも食べに来てくれた学生にいいと言ってもらえました。

私たちは、このイベントを今年度で終わらせるつもりはありません。本学の代表的なイベントの一つになってほしいと考えています。テスト期間になると、“おいしいあさごはんを食べることができたら勉強を頑張ろう。”と考えてくれる学生が増えたらうれしいです。しかし、長期的に実施することを考えると幾つかの課題があります。一つ目は、プロジェクトチームの学生の負担が大きくなってしまいます。イベントの目的として、勉強や研究を頑張してほしいと掲げており、試験期間前にイベントを行いました。チームのメンバーも同じように忙しく、今回の内容で調理から行って提供するためには時期をずらす必要があります。二つ目は、仁やのマスターの負担もとても大きいことです。仁やは深夜 3 時まで営業しているため、三日間マスターは睡眠を削って指導してくださいました。ボランティアとして毎年お願いするには負担が大きすぎます。これらを改善するためには、大学のイベントとして予算を算出して頂き、生協の食堂に協力してもらうことが必要だと考えております。このためには、工大生が本イベントを待ち望んでいるという声が必要です。その声を集めるために今後数年間は、ららんプロジェクトで同じようにイベントを実施したいと考えております。今回食べに来てられなかった方も、食べてまた食べたいと思った方も、『来年も食べたい』と言っただけでもいいので、プロジェクト問い合わせ先や学務課の方に伝えて頂きたいです。その一言が今後の活動を支えます。どうぞ宜しくお願い致します。



研究紹介

超高精度から超大型まで！

さまざまな宇宙構造物の実現をめざして

もの創造系領域

樋口 健 教授
勝又 暢久 助教



宇宙機構造工学研究室では、近年の宇宙構造物が抱える2つの大きな課題を実際的に解決するため、日々チャレンジ精神を持って研究・開発を行っています。近年の宇宙開発では、ミッションの高度化に伴い、より高精度に観測するための大型アンテナや衛星搭載天体望遠鏡が工学研究者に求められています。どの程度の精度かという点、例えば数mサイズの開口径をもつアンテナ鏡面に許される表面精度が50 μ mRMS程度です。細い髪の毛一本分の太さが約50 μ mですから、数mもあるアンテナ鏡面に求められる精度の高さを少しは想像してもらえないのでしょうか。このような超高精度宇宙構造物を実現することが、1つ目の大きな課題です。2つ目の課題は、国際宇宙ステーション (International Space Station: ISS) よりはるかに大きな超大型宇宙構造物の実現です。宇宙太陽光発電システム (Space Solar Power System: SSPS) という言葉を聞いたことがある方もいるかもしれませんが、これは宇宙で太陽光発電を行い、そのエネルギーをマイクロ波やレーザーに変換して地球に伝送し、新たなエネルギー資源として活用しよう、という計画です。SSPSのコンセプトは今から約50年前の1968年に米国のPeter Glaser博士によって提唱されたとされていますが、想定される構造物の大きさは約1~2km四方です。ISSがサッカーコート1面分の大きさに相当しますので、SSPSはサッカーコート約200~800面分の大きさです。このような巨大宇宙構造物を地球からロケットなどで物資を輸送しながら構築・建造しなければならず、コンセプト提唱から50年が過ぎますが、未だにその具体的な解決策が提案されていません。

以上の2つの大きな課題に対し、例えば図1や図2に示す研究を通じて、一步でも解決に近づこうとしています。図1は、格子投影法を応用した宇宙空間での面形状計測法に関する研究で、これは超高精度な宇宙構造物実現の課題に対応します。構造研究室なのになぜ計測法の研究？と思われる方もいるかもしれませんが、宇宙空間で構築した構造物の形が高精度に計測できなければ、その構造物が要求精度を満たしているか分かりません。また宇宙構造物の宿命として、収納と展開が挙げられます。地上で製造した大きな構造物をロケットフェアリング内に収まるよう収納し、宇宙空間では設計した形状になるよう展開する必要があります。さらに、重力も空気もある地上で打ち上げ前に目標精度が達成できたとしても、打ち上げ時の厳しい環境を経た後に、厳しい温度環境や放射線環境によって材料や構造が大きな影響を受ける宇宙空間で、同じ形状を再現する必要があります。そのためには、宇宙空間での形状をその場で計測して確認あるいは調整する必要があるのです。以上の理由から、宇宙空間での計測は超高精度構造を達成するために必要不可欠な技術であり、宇宙構造物へのフィードバックを視野に入れた計測技術の観点から、超高精度構造の達成に近づこうとしています。

図2は、ホームセンターで入手できるいわゆる巻尺と、それを被覆する組紐で構成された新たな伸展ブームです。2枚の巻尺と組紐を用いていることから、組紐被覆伸展梁 (Braid Coated Bi-Convex tape Boom: BCON Boom) と呼ばれています。巻尺がコンパクトに収納されているように、このブームはリールなどに巻き付けることで非常にコンパクトに収納し、かつ滑らかに伸展することが可能です。また、本来は開断面梁である巻尺を2枚組み合わせ、組紐被覆により閉断面化しているため、曲げやねじりに強い構造になっています。この高収納率かつ高剛性・強度な伸展ブームに関する研究と、折り紙のような展開構造を組み合わせることで、SSPSのような超大型宇宙構造物を実現するための糸口を見出そうとしています。

最後に、これらの研究結果を実際の宇宙構造物に広く利用してもらうためのデモンストレーションとして、超小型衛星を用いた宇宙実証も検討しています。図3は、OPUSAT-II と名づけられている衛星で、大阪府立大学と共同で開発中です。当研究室ではこの衛星のミッション部 (赤枠部) を担当しており、学生が主体となって日々の研究成果を具体化し、宇宙実証するために頑張っています。このミッションでは、格子投影法を用いた宇宙空間での形状計測、また超大型宇宙構造への適用を視野に入れた厚みのある板の折り紙 (折り板?) の展開実証が計画されています。

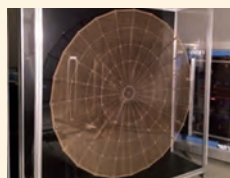


図1 格子投影法を応用した高精度メッシュアンテナの平面形状計測法

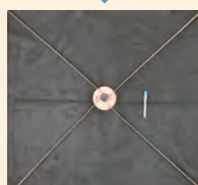
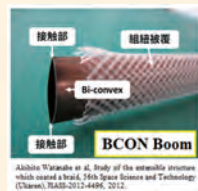
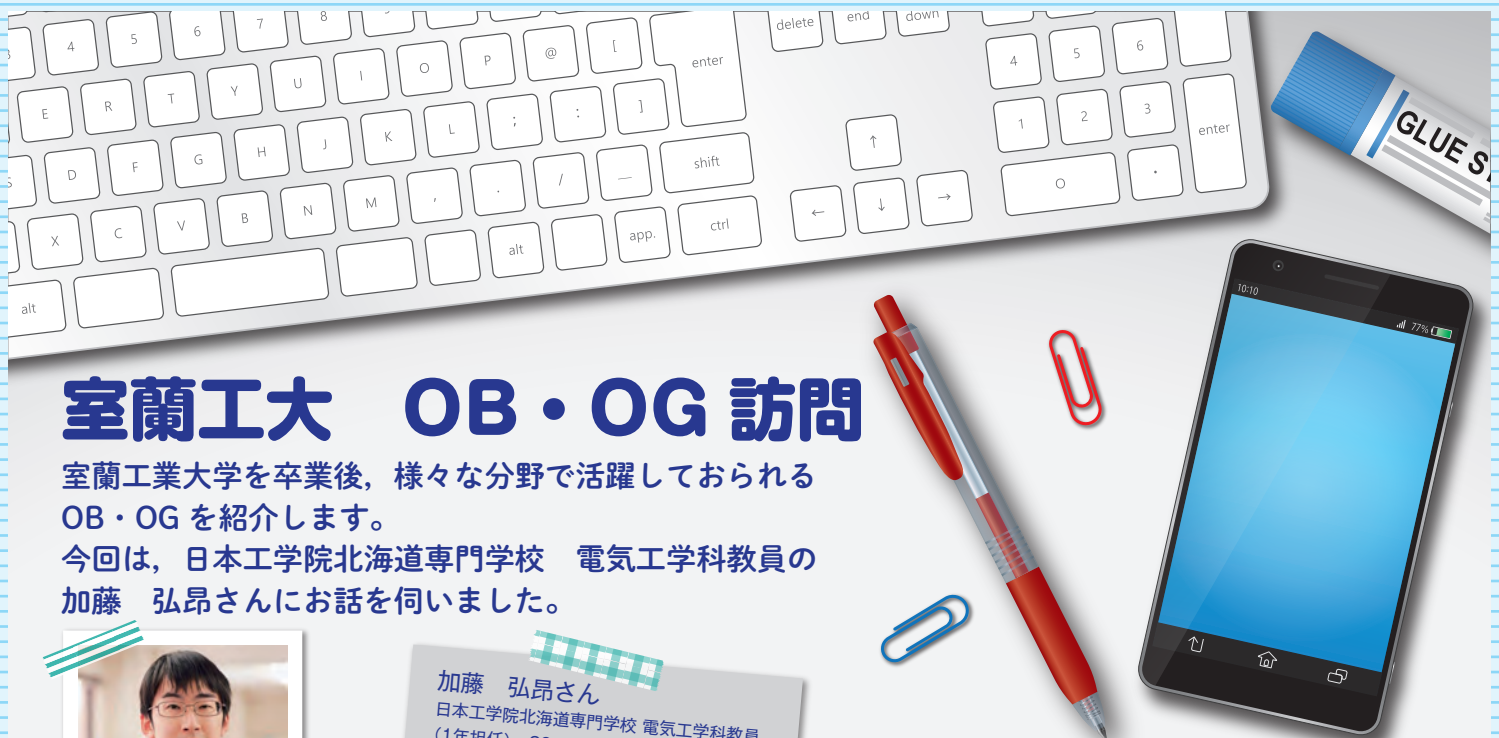


図2 組紐被覆伸展梁 (Braid Coated Bi-Convex tape Boom: BCON Boom)



図3 大阪府立大学と共同開発中の超小型衛星 (OPUSAT-II) (当研究室では赤枠のミッション部を担当)



室蘭工大 OB・OG 訪問

室蘭工業大学を卒業後、様々な分野で活躍しておられる
OB・OG を紹介します。

今回は、日本工学院北海道専門学校 電気工学科教員の
加藤 弘昂さんにお話を伺いました。



加藤 弘昂さん
日本工学院北海道専門学校 電気工学科教員
(1年担任) 2014年4月 入職
プロフィール
札幌東陵高等学校出身。
2014年 3月 情報電子工学系専攻
電気電子工学コース 修了

■学生時代のこと

一 室蘭工業大学を志望した理由、また卒業された学科(専攻)を選んだ理由を教えてください。

もともと理系科目が得意だったので、漠然と北海道内・理系・国公立ということで室蘭工業大学を選びました。電気系の学科を選んだことについても当時はそこまで深く考えておらず、なんとなく生活の様々な場面で人々を支えている電気についてもっと知りたいと思ったからです。ただ、そのあと学んでいくにつれてその時のなんとなくの判断が正しかったのだと思うようになりました。

一 所属研究室・研究テーマ、またそのテーマに興味を持ったきっかけを教えてください。

強相間電子物性研究室(関根ちひろ教授)に所属しており、研究内容は「熱と電気を変換する熱電変換材料の開発」でした。原発問題や大気汚染などのエネルギー環境問題に興味があり、再生可能エネルギーなどの発電関連の研究がしたいと思っていました。当初は太陽光関係を考えていましたが、すでに一般的に使われている技術よりも自分で新しい技術を開発していく方に魅力を感じ、熱電変換材料という研究に決めました。

一 大学時代を振り返って、特に思い出に残っていることを教えてください。

研究室に所属してからひっきりなしに本州の研究所に飛ばされたことです。北海道を出たことも数えるくらいしかない人間だったのですが、自分の研究のために忙しい時は毎月のように飛行機に乗って実験を行ってきました。東京大学の施設でも研究できたので、いい経験になったと思います。

■現在の仕事のこと

一 就職先として志望された理由、担当されている仕事の内容を教えてください。

専門学校で電気の勉強を教える教師をしています。大学で電気を学ぶにつれてどんどんこの分野が好きになっていったのですが、そんな中で電気の教員という求人を見つけたその道に進もうと思いました。現在は担任を持っているので授業で教えるだけでなく、生活指導や就職指導といった学生指導も行っています。



一 仕事の面白さ、やりがいを感じることを教えてください。

授業科目は大学でやってきたことと同じものが多いですが、専門学校なので大学で学んだことをそのまま教えるということではありません。なので、自分でしっかり理解した上でかみ砕いて出力する必要があります。はじめの内は中々うまくいかなかったのですが、自分なりのやり方で学生に分かってもらえた時は非常に達成感があります。

一 在学中に学んだことや身についたことで、現在の仕事に役立っている、あるいはつながっていると感じることを教えてください。

同級生のなかで学んだ授業を最も役立っているのは私ではないでしょうか。当時の授業一つ一つを思い出しながら自分の授業を行っていますが、もっとちゃんと授業を聞いていればよかったといつも思います。また、勉強以外にも自分の就職活動など学生の先輩として一つ一つの体験が役立っています。

一 これからの仕事の目標、夢を教えてください。

自分が教える立場になって、これまでお世話になってきた先生方に謝りたいと思います。というのも、学生の時に「あの先生いちゃウルサイ」など思っていたにも社会に出たあとで正しいことを言っていたなと実感することが多くなったからです。自分のことばも今は学生に届かないことが多いかもしれませんが、社会人になってからふとした時に思い出してためになるように伝えていけるよう頑張っていくと思っています。

■在学生へのメッセージなど

一 室蘭工業大学の印象・期待することを教えてください。

登別で働いていると新聞などでも室蘭工業大学のニュースを見ることが多いです。地元室蘭だけでなく北海道のため、日本のため、世界のためにどんどん良い人材を育てて送り出して欲しいと思います。

一 本学の女子学生に期待することを教えてください。

仕事上、色々な企業の方と就職情勢について話すことが多いのですが、最近では「女性の採用を進めています」という会社も多いです。とはいえ、まだまだ女性技術者の絶対数は少ないのが現状です。未来の後輩たちのためにも、ぜひ皆さんが女性技術者の道を切り開いていってください。

一 室蘭工業大学の在学生に向けて、先輩としてのメッセージ・アドバイスなどをぜひお願いいたします。

私は学生時代には自分が社会に出た後のことなど想像もつかず、卒業が近づいてくると漠然とした不安が大きくなっていました。ただ何事も実際にやってみたら何とかなることが多いので、今はとにかく色々なことをやってみてください。今現在、「これをやって意味があるのか」などと思っているようなことでも社会に出てみたら思わぬところで糧になっています。

TOPICS

オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学日本語研修を実施

10月26日(木)から11月7日(火)の13日間、本学交流協定大学のオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)から日本語研修グループ学生9名(男子4名・女子5名)を受入れ、日本語研修を実施しました。

本研修は、本学での日本語による講義及び本学の学生との交流、北海道の自然や文化施設等の見学により、オーストラリアとは違った文化、歴史等についての知識・理解を深めることを目的としています。

研修中は、昭和新山、白老町のアイヌ民族博物館などの様々な施設を見学、ものづくり基盤センターでのカントリーサインの鋳造体験、また、日本語によるプレゼンテーション形式の体験発表などを行いました。

滞在期間中の1週間は、市民の方にご協力いただき、ホームステイにより日本の生活文化を体験し、有意義な時間を過ごしました。

11月3日(金)は、室蘭工業大学附属図書館において開催された第4回ビブリオバトル世界大会にRMIT学生1名が参加し、来場者の投票によりRMIT学生が優勝を飾りました。

研修には、今年度の語学研修・RMITスタディツアーに参加した学生や国際交流クラブの学生等、本学学生が日本人学生チューターとして参加・同行し、研修プログラムの支援をする中で、英語を使つての日本文化や生活の紹介をする等語学への興味を高め、また、交流を深める良い機会となりました。



学生講演会地区別懇談会を開催



室蘭工業大学学生後援会主催の地区別懇談会を、10月28日(土)から順次、5地区(名古屋、仙台、札幌、帯広、室蘭)で開催しました。

地区別懇談会は、父母等に学生の修学状況や学生生活、就職・進学等の情報提供及びアドバイスを直接行うことを目的として昭和45年以来毎年道内各地で実施してきており、平成26年度からは道内3会場(札幌、旭川、室蘭)に加え、仙台地区と名古屋地区に会場を設け、実施しました。

今年度は、道内会場を帯広、札幌、室蘭とし、名古屋、仙台的道外2会場を加え5会場で実施しました。

懇談会は、全会場とも教員との個人面談形式で行われ、成績資料や懇談会用に作成した冊子をもとに、単位の取得状況や今後の進路などを中心に熱心な話し合いが行われました。

参加した父母等からは「本州在住のため、道外で懇談会を開催していたでいて非常に参加しやすくなった。」「心配していたことが相談でき、アドバイスももらうことができた。」「子供の様子を直接聞くことができて安心した。」等多くの感想が寄せられました。

<平成29年度地区別懇談会の実施状況>

	名古屋	仙 台	札 幌	帯 広	室 蘭
開 催 日	10月28日 (土)	10月29日 (日)	11月3日 (金)	11月4日 (土)	11月12日 (日)
参加者数	42	32	127	23	83

無人飛行機の完全自律飛行試験に成功

室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターは、12月14日(木)に白老滑空場において、無人飛行機の完全自律飛行試験に成功しました。

実験に使われた飛行機は、電動モーターで駆動する全長1.3メートル、全幅1.6メートル、総重量3キログラムの電動プロペラ機でGPSや高度計などのセンサー、慣性航法などを備えています。

飛行実験は2回行い、プログラム通りに高度60メートルまで上昇し、最大時速80キロで約2分間旋回して無事着陸しました。

今回の成功により自律飛行を制御する技術の確立や無人超音速飛行機の開発に向けての大きなステップとなりました。



チェンマイ大学との第5回合同シンポジウム「MIER2017」を開催

平成29年11月16日(木)から18日(土)の3日間、タイ王国チェンマイ市において、チェンマイ大学との第5回合同(国際ジョイント)シンポジウムを開催しました。

チェンマイ大学は、平成17年4月19日、本学と第10番目に締結した学術交流協定校であり、平成22年7月、平成27年5月に締結を更新しており、交流の盛んな協定校のひとつです。

本シンポジウムは、チェンマイ大学 Industrial Engineering 学科と本学機械システム工学コースが中心となり、国際交流センター等の学内の協力を得て、平成22年より数年おきに両国で交互に執り行われています。第1回(TJIEEM-CMU-MuroranIT-2010)は平成22年11月にチェンマイで、第2回(MIER2012, Mechanical, Industrial Engineering and Robotics)は登別・室蘭で、第3回(MIER2013)は平成25年11月にチェンマイで、第4回(MIER2015)は平成27年5月に室蘭で開催されました。

5回目を迎えたMIER2017は、機械工学や生産工学、ロボティクスなど、これまで主な対象としていた研究分野からスコープを広げて、環境科学やバイオ工学、材料科学や情報工学などを包含させて、チェンマイ大学(Industrial Engineering 学科, Mechanical Engineering 学科, Civil Engineering 学科, Electrical Engineering 学科, ほか)から約50名、本学(くらし環境系領域, もの創造系領域, しくみ情報系領域, 工学専攻, 生産システム工学系専攻, 環境科学・防災研究センター, ほか)から19名の参加者を得て、教員の研究紹介、学生の研究発表、今後の共同研究や学術交流に関する協議、ロイヤルプロジェクトの聴講や視察、チェンマイ大学の教育研究施設の見学、学生同士の交流などを通して、活発に意見や情報が交わされ、和やかに懇親を深め、成功裏に終了しました。



ロボットサッカーコンテストを開催

1月6日(土)、7日(日)の2日間にわたり大学会館多目的ホールにおいて、第24回学長杯争奪ロボットサッカーコンテストが開催されました。

このコンテストは、中学生や高校生に対する理工系分野への啓発を図るとともに、地域の活性化に資することを目的に、平成6年度から実施されています。

今年の参加チームは、室蘭市をはじめ、伊達市、札幌市、小樽市、滝川市及び釧路市からの参加もあり、クラスA(小中学生を含むチームを対象とし、有線操縦ロボットによる競技)に17チーム、クラスB(小学生以上を対象とし、無線操縦ロボットによる競技)に14チーム、クラスC(自立移動ロボットによる競技)に6チームの計37チームでした。

競技は、クラスA及びクラスBについては、予選と本戦を行いました。予選はリーグ戦方式、本戦はトーナメント戦方式で、1個のボールを使って2台のロボットが制限時間内に得点を競う対戦競技を行いました。クラスCについては、あらかじめ定められた位置におかれた8個のボールを、制限時間内に得点の異なるゴールにシュートして総得点を競いました。

会場には連日多数の観客が訪れ、参加者の白熱した戦いを観戦していました。操縦者の巧みな操作で技ありのシュートが決まるたびに大きな拍手や歓声が上がり、劇的な試合が多かったこともあり、大いに盛り上がりました。

また、大会期間中の特別企画として、室蘭市立水元小学校の児童が描いたロボットの絵画展が行われ、会場を一層盛り上げました。



平成29年度市民懇談会を開催

1月17日(水)に本部棟中会議室において、平成29年度室蘭工業大学市民懇談会を開催しました。

この懇談会は、大学が地域とともに発展するため、広く地域の方々と意見を交換することを目的として設置したもので、公募による一般市民3名を含む、室蘭近隣の経済界、教育界等からの委員8名、傍聴者4名及び本学の委員が出席しました。

懇談会に先立ち、くらし環境系領域社会基盤ユニット有村幹治准教授より、「情報化時代の都市地域交通計画」と題して研究紹介が行われ、引き続き、建築社会基盤系学科1年 佐野湧樹氏より、「クラウドファンディングを用いたイタンキ浜の清掃プロジェクト」と題する学生の活動報告が行われました。

最後に、「地域における大学の役割」をテーマとして活発な意見交換がなされ、各委員から、「観光振興や国際交流についても大学とより連携ができればよい」、「卒業後の再就職等についても支援する取組がもっとあれば学生にとってはありがたいのではないか」等、率直な意見、要望が出されました。



室蘭工業大学 教育・研究振興会のご案内

室蘭工大には、「教育・研究振興会」という組織があり、毎年、様々な学生支援活動を行っています。教育・研究振興会の活動は、教職員、学生の保護者、企業、卒業生、一般の方々からの募金により運営されており、毎年多くの方のご支援により支えられています。

現在、教育・研究振興会では、「成績優秀者への奨学金」「困窮学生のための臨時的生活支援」「社会人博士後期課程学生への奨学金」「国際交流活動支援」「博士課程学生への支援」を行っており、より多くの学生を支援するため、今後も事業を継続して行っておりまいますので、ご支援の程よろしくをお願いします。

教育・研究振興会への募金や支援事業の報告（振興会だより）は、以下のホームページからご覧いただけます。

室蘭工業大学教育・研究振興会HP

<https://www.muroran-it.ac.jp/syomu2/kkshinkou/index.htm>

室蘭工業大学教育・研究振興会HP



附属図書館のご案内

当館は、室蘭工大の学生・教職員のための図書館ですが、学外の一般の方も利用できます。

当日の利用のみを希望される場合は、身分証（免許証、学生証等（国、地方公共団体、学校法人が発行したもの））をご提示ください。また、図書館利用証を作成しますと、当館資料の貸出もできます。利用証作成の手続きについては、当館ホームページをご覧ください。

なお、試験期間につきましては本学学生の利用を優先するため、座席のみのご利用はご遠慮いただいております。

当館の最新情報は、開館日・開館時間、利用方法、図書の検索等はウェブサイトから、新着図書の紹介や各種企画展示・イベント等はFacebookとTwitterから発信しています。

附属図書館HP <http://www.lib.muroran-it.ac.jp/>

附属図書館Facebook <http://www.facebook.com/MuroranIT.lib>

附属図書館Twitter http://twitter.com/MuroranIT_lib/

附属図書館HP



附属図書館Facebook



附属図書館Twitter



公開講座・室工大サイエンススクールについて

室蘭工大では大学の施設を開放して、広く地域の方々を対象に、生涯学習の一環としてさまざまなテーマによる参加・体験型の公開講座や、地域の小・中学生を対象に、日常の授業を離れて「科学技術」や「ものづくり」に興味や関心をもってもらうための体験型プログラムとして室工大サイエンススクールを実施しています。

実施内容や開催時期については、大学ホームページに掲載していますので、是非、一度ご覧ください。

公開講座HP

http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/extension_lecture.html

室工大サイエンススクールHP

http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/ss_mit.html

公開講座HP



室工大サイエンス
スクールHP



教育・研究3号館（N棟）が生まれ変わります

本学の講義棟である教育・研究3号館（N棟）の改修工事を行っています。この棟は、すべての学生が講義を受講し、掲示板で講義情報等を見えるために必ず利用する講義棟です。工事は平成29年後期から開始し、順次改修を行う予定です。アクティブラーニングに適した教室に改修する等、学生の皆さんがより良い環境で講義を受けられるように整備していきます。

「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」

室蘭工大では、本学をさらにご理解頂くため環境やエネルギー関連の研究を紹介した、「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」を刊行いたしました。

本書は、本学でどのような研究が為され、それが社会にどのように還元されるのか、そしてそれをいかに平易な言葉でご紹介できるかを考え、編集したものです。

また、本学の研究につきましては、室蘭工業大学研究者データベース (<http://rd-soran.muroran-it.ac.jp/search/index.html>) 及び室蘭工業大学研究シーズ集 (<http://www.muroran-it.ac.jp/crd/seeds/seeds.html>) においてもご紹介しておりますので、併せてご覧ください。

国立大学法人 室蘭工業大学 編

A5版／232ページ／1,620円（本体1,500円＋税）

北海道新聞社 刊

ISBN978-4-89453-745-3

室蘭工大
未来をひらく
技術と研究



平成30年3月20日発行 第57号

室蘭工業大学広報室 編集

〒050-8585 室蘭市水元町27-1

E-mail: koho@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL.0143-46-5016

【ホームページURL】<http://www.muroran-it.ac.jp>

室蘭工業大学HP

